

奥羽大学報



卒業証書・学位記授与式 答辞 薬学部 今野智栄君

目次

平成 25 年度卒業証書・学位記授与式	2
学位論文題名一覧	4
卒業記念贈呈式／謝恩会／第 107 回歯科医師国家試験／ 第 99 回薬剤師国家試験	5
臨床実習学外研修／早期体験学習／オープンキャンパス／ 竹元万壽美教授 日大東北高校で高大連携講座を開催	6
歯学部研究紹介／薬学部研究紹介	7
Keystone シンポジウム報告／若手研究奨励賞を新たに創設／ 附属病院	8
父兄会	9
「キャンパスの石と彫刻」写真展／ 第 20 回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会／ 奥羽大学学術機関リポジトリの公開／同窓会だより	10
同窓生のひろば／人事	11
退職によせて	12

平成25年度卒業証書・学位記授与式

平成25年度卒業式・学位記授与式が3月10日(月)午後1時より本学記念講堂において挙行された。

式典は、多数の来賓のご臨席を賜り、ご父兄や教職員が参列するなか、厳粛に進行した。来賓を代表して学校法人晴川学舎影山英之理事長が祝辞を述べられ、赤川安正学長が告辞を贈った。卒業生を代表して薬学部今野智栄君が答辞をした。

歯学部歯学科88名、薬学部薬学科46名に卒業証書ならびに学位記が、また大学院修了者7名と論文提出者5名に博士(歯学)の学位記が、それぞれ一人ひとりに授与された。

さらに成績優秀者には晴川賞と優等賞が贈られた。

◆晴川賞

歯学部歯学科 高橋 文太郎

◆優等賞

歯学部歯学科 小関 徹
宮下 雄
薬学部薬学科 今野 智栄



高橋文太郎君



小関徹君(左)、宮下雄君(右)



今野智栄君

祝 辞

理事長 影山英之

卒業証書並びに学位記を掌にされます皆さんと、御臨席なされましたご父母各位に心よりお祝いを申し上げます。本日はまことにおめでとうございます。

今、翔び立たんとする皆さんの胸中には、これまでの様々な経験の記憶が去来していることと拝察します。経験から何を学ぶかは人それぞれにより異なるかもしれませんが、経験したことには一つとして無駄なことはなく、必ずや皆さんの人生に豊かな実りを齎す良質な肥料となってくれることでしょう。

とりわけ志を持って六年の歳月を費やした本学で、皆さんが「物事の本質を捉える大切さ」を学んでくれれば、私共にとってこれ以上の喜びはありません。今より後、何事も一朝一夕に出来ることばかりではありませんが、困難が全てでもありません。今、自分の前になすべきことがあれば、できぬ心配をするよりは、できたと

きの喜びを心に描いてやってみることです。失敗は成功の母、何度でも立ち直る努力を厭わなければ、挫けることは恥にはなりません。

今日の仕事を明日に延ばさず、今日の仕事としてやり遂げることです。一日一日実行し、繰り返し積み重ね続けていく先に、新たな可能性が生まれ目標は必ず達成されます。皆さんが常に良識と善意を備え、社会から望まれる立派な歯科医師又は立派な薬剤師となって地域医療に貢献され、世界平和に寄与してくれることを希っております。

千年に一度あるか無いかの大災害に遭遇し、早三年を数えます。被害を受けた街並みも其摠此摠にポツリポツリとですが、復興住宅が建ち始めました。原発は制御不能のままで痛ましい姿を晒しておりますが、このような中にあっても、本日の晴れの卒業式を迎えられた皆様程、力強い存在はありません。

どうぞこの勢いを持ち続けられて、限りなく前進して下さい。本日はおめでとうございます。

告 辞

学長 赤川 安 正

卒業生の皆さん、ご卒業 誠にありがとうございます。また、卒業生のご両親、ご親族の皆様には今日の日を大きな喜びをもってお迎えのことと存じ、心よりお祝いを申し上げます。

本日、ここに、晴川学舎理事長 影山英之先生を始めとするご来賓の方々と、ご両親、ご親族の方々のご臨席を賜り、平成25年度の卒業式を挙行できますことは、本学にとって最も大きな喜びとするところであります。

本学は「人間性豊かな歯科医師を育成する」ことを建学の精神に掲げ、1972年、東北・北海道地域における唯一の歯科大学として創設され、2005年には、高齢社会に突入した地域の老人保健医療福祉の向上を担う「人間性豊かな薬剤師を育成する」ため、歯学部との連携のもと、福島県で唯一の薬学部を創設いたしました。以来、本日で、歯学部では3,994名の卒業生を、薬学部では464名の卒業生をそれぞれ輩出することとなります。

現在、我が国は世界に類をみない速度で超高齢化が進んでいます。このような中において、国民の最大の関心事は、単なる長生きではなく、健康で自立して長生きをする「健康長寿」であります。この「健康長寿」に大きな貢献ができるのが、歯科医師であり、薬剤師なのです。すなわち、国民の一人ひとりが元気な時は勿論のことですが、要支援や要介護の状態になっても、「口から食べる生きる喜び」を与えることこそが歯科医師の最大の仕事であり、一方、薬剤師は、薬の専門的知識を有して、病気に苦しむ患者に寄り添い、健康と安心を与えることこそが最大の仕事なのであります。

卒業生の皆さんは、自らの夢である「歯科医師になる」「薬剤師になる」ことを実現するため、ひたむきに、そして全力で努力を積み重ねられました。その学びの時間の中では、一生の友情を育んだに違いありませんし、また一方で、学習方法や友人関係で悩んだこともあったものと拝察いたします。更に、誰も経験したことのない東日本大震災に遭遇し、また福島第一原発事故による風評にさらされ、大変な困難もあったことと思います。そのような中であっても、医療系大学の学生として正しい判断の下で行動し、今日まで学業に励んでくれたことに、心から敬意を表します。

卒業生の皆さんは今後、歯科医師として、薬剤師

として活躍し、社会と国民に奉仕をするわけですが、医療現場における多職種の協働では、「誠実」、「コミュニケーション」、「チームワーク」、「高い倫理観」などが必須の事柄です。皆さんは本学の建学の精神である「人間性豊かな医療人を育成すること」を達成した具現者でありますから、必ずや中心的な役割を果たしてくれるものと確信をしています。

時代は明らかに皆さんを求めています。ここまで大きくして下さったご両親、ご家族、ご親族への感謝の気持ちを決して一時も忘れることなく、しっかりと自らの将来を見すえて、できる限りの努力を惜しまないで下さい。そして、自らの能力を信じ、それを大きく伸ばし、奥羽大学卒業生としてのプライドを背負って活躍してくれることを期待しています。その活躍こそが、東北地域における医療面の復興に大きく貢献するものと確信をいたします。母校奥羽大学も、皆さんの活躍に負けないように、さらに発展する決意であります。

結びに、卒業生の皆さんのご健康と今後のご活躍を心から祈念申し上げ、これを告辞といたします。

答 辞

卒業生代表 今野 智 栄

早春の暖かな陽の光が白銀の大地に注ぎ、雪解けの足音もまた一歩近づいた今日この頃、新たに芽吹かんとするつばみのように、私達は未来への一歩を踏み出します。

本日は、私たちの為に、このような盛大な式典を催していただき、卒業生一同感激を新たにしております。ここに僭越ではございますが卒業生を代表して一言御礼申し上げます。

理事長先生、学長先生をはじめ、御来賓の先生方、関係各位の皆様のご臨席ならびに励ましのお言葉を賜り、誠にありがとうございます。

桜舞う四月、新しい学生生活への期待と一抹の不安を胸に、私達は奥羽大学の門を通りました。日々進歩を続ける医療という分野は、さまざまな学問と密接に絡み合い、複雑に結ばれています。その結び目を解く作業はとても困難で、諦めかけたことが何度もありました。そうした際に、目標を共にする友人達や、時に優しく、時に厳しく私達を導いて下さる先生方が手を差し伸べてくださいました。心が折れそうになった時、家族がそっと支え、励ましてくれました。

多くの方々のお力添えのおかげで、私達は学生生活を乗り越え、今日この日を迎えることができました。

今後、医療界は更なる発展を遂げ、そのフィールドは国内に留まらず、海外の医療や社会とも積極的に関わっていくことでしょう。奥羽大学で学んだ知識と経験を生かし、支えてくれた人々への感謝と期待を胸に、私達はそれぞれの道で社会の発展に貢献していきたいと思えます。

そして、日々自己研鑽に励み、相手を思いやる優しさと医療を担う者の責任感を持った人間性豊かな

歯科医師、薬剤師を目指していく所存でございます。

本日まで御指導くださいました諸先生方や大学関係者の皆様に、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

最後となりましたが、諸先生方や御来賓の皆さまのより一層のご健勝と、奥羽大学のますますのご発展を心より祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

学位論文題名一覧

学位取得者	専攻・講座	論文題名
三浦 浩輝	歯科補綴学	レーザー溶接時の波形が金属フレームの変形に及ぼす影響
吉野 浩正	歯内・歯周療法学	ラット頭蓋骨に設置したチタンキャップ内面のハイドロキシアパタイト処理が垂直的骨増大に及ぼす影響
森田 聡	歯内・歯周療法学	β -リン酸三カルシウムがラット頭蓋骨に設置したチタンキャップ内の垂直的骨増大に及ぼす効果
石澤 正晃	歯内・歯周療法学	スタチンがラット頭蓋骨に設置したチタンキャップ内面の垂直的骨増大に及ぼす効果
小澤 亮	口腔衛生学	炭酸ガスレーザー照射後ラット歯内の組織変化 —Hps47、テネイシンCおよびフィブロネクチンの発現状況—
山野辺晋也	顎顔面口腔矯正学	Twin Block 療法によるⅡ級不正咬合者の筋活動の変化と姿勢の関連性
沼田 匠	口腔保健学	ニコチンによるマクロファージからの炎症性サイトカイン産生促進機構の検索
山内 貴子	歯科補綴学	傾斜埋入されたインプラントに対する作業用模型の精度 —印象材の硬度がアナログの変位に及ぼす影響—
山村 文弘	歯科補綴学	印象材の硬度が作業用模型におけるアナログの変位に及ぼす影響 —印象用コーピングを連結しない条件での検討—
岡本 望	咬合機能修復学	シラン処理とプライマー処理の併用によるジルコニアとハイブリッドセラミックスの接着強さ
渡辺 敦	顎顔面口腔矯正学	レチノイン酸はヒト歯肉上皮細胞からの抗菌ペプチド産生を誘導する
森蔭 由喜	口腔外科学	ラット切歯歯根に達するインプラント埋入が切歯萌出および顎骨形態に及ぼす影響

卒業記念贈呈式

3月7日(金)、平成25年度卒業記念贈呈式が午後1時より学長室にて行われた。

歯学部代表の安部将太君、薬学部代表の兼平幸宗君から卒業記念として20万円が贈呈された。

学長から「大切にに使わせていただきます。奥羽大学の卒業生として誇りを持ち、地域医療に貢献する歯科医師・薬剤師になってほしい」との謝辞があった。



謝恩会

歯学部

3月10日(月)、卒業証書・学位記授与式当日、午後7時より歯学部37期卒業準備委員会の主催による謝恩会が開催された。赤川学長、大野歯学部長、渡辺同窓会会長、月田父兄会会長、狩野父兄会副会長、小林父兄会相談役を来賓として迎え、卒業生たちは恩師や学友たちと語り、別れを惜しみながらも、未来への思いを走らせていた。



薬学部

3月10日(月)、卒業証書・学位記授与式当日、午後6時より、郡山駅前ビューホテル・アネックスにおいて、薬学部6期卒業準備委員会の主催による謝恩会が開催された。薬学部長衛藤教授の挨拶があり、学年主任高田教授が乾杯の音頭をとると、雰囲気は一気に和み、卒業生たちは恩師や学友たちと語り、別れを惜しんだ。



第107回歯科医師国家試験

2月1日(土)、2日(日)宮城県仙台市にて第107回歯科医師国家試験が行われた。

合格発表は3月18日(火)に厚生労働省のホームページ、各地方の厚生局で発表された。

本学からは191名が出願し、150名が受験した。合格者は45名であった。

そのうち新卒者は126名が出願し、88名が受験した。合格者は29名であった。

第99回薬剤師国家試験

3月1日(土)、2日(日)の両日行われた第99回薬剤師国家試験が行われた。

合格発表は3月31日(月)に厚生労働省のホームページ等で発表された。

本学薬学部の受験者は91名(新卒46名)で、合格者は33名(新卒12名)であった。

臨床実習学外研修

2月27日(木)、福島県西郷村の太陽の国で歯学部臨床実習生の学外研修が実施された。実習生は施設長からオリエンテーションを受けた後、利用者への実地研修としてベッドから車いすへの移乗、車椅子での施設内の移動、食事介助、経管栄養、口腔ケア、入浴介助、着衣介助等を体験した。今年度は特別養護老人ホーム2施設と障害者支援施設2施設で計5回にわたり、20名の臨床実習生が学外研修に参加した。



早期体験学習

薬学部1年生は早期体験学習の一環として、1月16日(木)、17日(金)、泉崎村にある秋山錠剤株式会社を訪問し、薬剤製造過程を見学した。製薬工場で活躍する薬剤師に接して、その職能の多様性について理解を深めるとともに、微塵の異物混入も許されない医薬品製造過程を目の当たりにし、「安心安全なくすり」について種々の観点から考える良い機会になった。



オープンキャンパス

3月15日(土)、「大学の授業を体験しよう!」と題し、新高校2年生、3年生を対象としたオープンキャンパスが開かれた。

始めにオリエンテーションとして、赤川安正学長が歯科医師、薬剤師の今後の展望と健康長寿を目的とした医療の重要性を述べ、いかにやりがいのある職業であるかが説明された。

模擬授業では、歯学部の川原一郎講師が「歯科における口腔外科的疾患と治療」、薬学部の関健二郎講師が「精神疾患の病態生理とその治療薬」と題し、大学で行われる授業さながらの講義を行った。オープンキャンパスに参加した学生は、直接大学の授業に触れ、高校とは異なった専門的な授業の難しさを感じながらも、大学進学への気持ちを新たにしようだった。



竹元万壽美教授 日大東北高校で 高大連携講座を開催

1月20日(月)、日本大学東北高等学校において薬学部 竹元万壽美教授が3年生を対象として「身の回りの科学：お茶を科学的に解明しよう」をテーマに講演を行った。

この講演会は、本学が取り組んでいる高大連携講座の一環であり、県内及び近県の高校に教職員が直接出向いて、自己の研究テーマに関わる最先端の知見や考え方を分かりやすく伝える取り組みである。

講演では、お茶を飲む最適な温度や「薬とお茶」の関係を化学式を用いて科学的に説明をした。講演を聞いた生徒からは、おいしいお茶の入れ方を教えてもらったので両親にこれから飲ませたいとの意見も聞かれ、お茶をより身近に感じたようだった。



歯学部研究紹介

低出力レーザーの作用機序に関する基礎的研究—フリーラジカル制御による検討—

放射線診断学講座 助教 茂呂祐利子

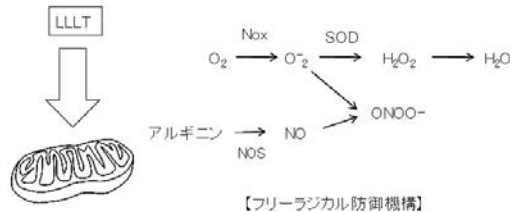
低出力レーザー治療 (Low Level Laser Therapy : LLLT) は歯周病における炎症の改善、インプラントにおける骨形成の促進、顎関節症や矯正治療における疼痛緩和など、多岐にわたって臨床応用されている。細胞レベルにおいては、細胞の増殖・分化促進、増殖因子産生の増加、細胞遊走の促進などが報告されているものの、何が最初のシグナルとなってそのような作用が働くかという作用機序については長らく不明であった。

近年、LLLTにより細胞内小器官であるミトコンドリアに光エネルギーが吸収されることでエネルギーであるATPを産生し、このエネルギーによって細胞が活性化すると報告があり、新たな作用機序として注目を浴

びている。このシグナリングに関与するとされるのがフリーラジカルである。

フリーラジカルは放射線、低酸素、炎症などのストレスによって生成され、多量に生成されたフリーラジカルは生体にとって毒である。そのフリーラジカルから生体を守る機構がフリーラジカル防御機構であり、LLLT後、生体内においていかなるフリーラジカル防御が行われているかについて明らかにし、レーザー治療のエビデンスを得ることが私の研究目標である。

なお、本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金に採択され(若手研究(B))、第119回日本解剖学会総会・全国学術集会(3月27日～29日:栃木)で発表した。



薬学部研究紹介

薬の投与量を自動で制御する新規薬物投与法の開発に関する研究

物理系物理化学分野 助教 小野哲也

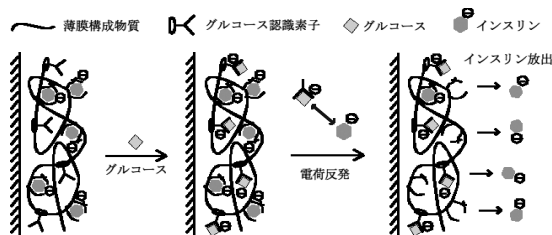
近年、薬物療法は大きく進展しており、様々な疾患に対する新規医薬品が次々と開発されている。これら医薬品は疾患治療に高い効果を有する反面、意図せぬ副作用が現れることもあり、「有効性」と「安全性」がともに保証されるような製剤設計が極めて重要となっている。

私はこれまで、電気化学的重合反応を利用した薄膜の作製について研究し、薄膜中に含まれる物質の量や比率を自由に制御可能であることを明らかにしてきた。また、糖濃度依存的に構造変化する分子認識素子についても研究し、これらを組み合わせることで、全く新しい医薬品の投与形態を

確立することができる考えた。

すなわち、この薄膜を糖尿病治療薬であるインスリンの貯蔵庫として利用するとともに、グルコース濃度に応じて構造変化する分子認識素子を導入することで、「血糖値が治療域に達したときにのみ薄膜が構造変化を起こし、インスリンが必要な量だけ自動で放出される」という完全自動制御型の薬物投与システムが構築可能となる。

この研究課題は、日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究(B))に採択され、課題達成に向けて現在研究に取り組んでいる。



Keystone シンポジウム報告

血栓止血の新しい治療を求めて世界で研究開発が進むなか、その動向を見るには、このシンポジウムが最適だろう。ここKeystoneはデンバーから車で2時間の高級リゾート地である。スキー場と、氷が張った池にはスケートリンクがあり、世界からトップレベルの研究者が集う。3日間の寝食を共にしながらの議論が伯仲する。標高が2,600mと高く、少々動くだけで息切れがする。体調を崩すこともあるというので、スポーツ用の酸素ボンベを持参した。これが結構役に立った。応募の中から我々の演題が口頭発表に選ばれた。とても名誉なことである。血小板の脂質ラフトという今までにない研究成果が注目を浴びた。共同研究の提案も受け大変嬉しかった。Bloodの編集長のDr.Parise、知人のHarvard大学のDr.Michelson、MITのDr.FlaumenhaftとDr.Furieなどがいらして議論ができた。

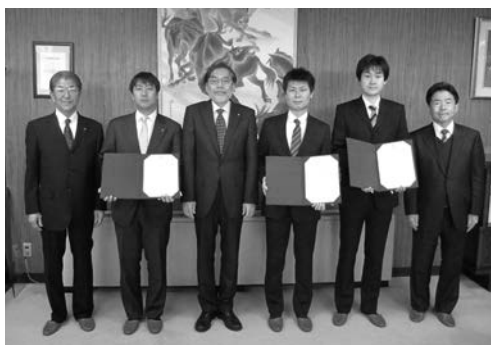
シンポジウムの後、BostonのHarvardとMITのラボを訪問してきたのも、彼らの快い「おもてなし」のお陰である。今後とも新しい発見を目指して頑張ろうという気持ちになった。(薬学部 山本正雅)

若手研究奨励賞を新たに創設

本学教員に研究助成費を交付する若手研究奨励賞が、新たに設けられた。この賞は、若手教員の研究力向上と科学研究費補助金獲得を目的としたものである。歯学部9名と薬学部5名の応募者に対して、申請書の内容とプレゼンテーションを基に審査が行われた。以下の3名が受賞し、研究費として100万円がそれぞれに支給された。

歯学部：岸 飛鳥助教・高橋進也助教

薬学部：大原宏司助教



附属病院

医療安全管理研修会

平成25年度第9回医療安全管理研修会が2月13日(木)、152名の参加者を得て附属病院臨床講義室で開催された。講師は医療安全管理者の釜田朗講師と院内感染管理者の渡部敏恵看護係長で、テーマは「医療事故防止のための相互チェックからの報告」であった。これは、国・公・私立大学歯学部附属病院で医療安全全般を統一のチェック項目で確認して医療の安全と質の向上を図ることを目的に2年に1度実施されているもので、各病院の医療安全に対する取り組みが紹介された。



歯科医師臨床研修修了式

平成25年度歯科医師臨床研修修了式が3月28日(金)に附属病院臨床講義室で挙行了された。

はじめに、高橋和裕病院長より研修歯科医43名一人ひとりに修了証が授与された。続いて大野敬歯学部長より、患者の望んでいる治療がどういったものかを見て取れるような歯科医師を目指してもらいたい、また大学で学んだことを糧として励んで欲しい旨の訓示があった。修了証を手にした研修医は、それぞれの進路での活躍を誓い合っていた。



父兄会

平成26年度歯学部・薬学部父兄会役員ならびに主な行事予定と予算については下記のとおりである。

歯学部

〔平成26年度役員〕

歯学部父兄会

会 長 狩野 裕史
副会長 佐藤 功二
監査役 田中 裕

〔主な行事予定〕

定時総会 平成26年 4月 4日(金)
平成26年 5月17日(土)
平成27年 3月10日(火)
共済基金委員会 平成26年 5月17日(土)
平成26年10月18日(土)
平成27年 3月10日(火)
幹事会 平成26年 5月17日(土)
平成27年 3月10日(火)

地域会(全体会・個別懇談会・懇親会)

平成26年6月22日(日)	東京	大森東急イン
平成26年6月29日(日)	福岡	福岡ガーデンパレス
平成26年7月 6日(日)	大阪	大阪ガーデンパレス

〔予 算〕

(収入の部) 単位:円

科 目	本年度予算額
前年度繰越金	14,087,255
入 会 金	350,000
会 費	7,500,000
地域会参加費	300,000
雑 収 入	3,000
合 計	22,240,255

(支出の部) 単位:円

科 目	本年度予算額
通 信 費	200,000
印 刷 費	100,000
会 議 費	800,000
消 耗 品 費	25,000
旅 費 交 通 費	1,300,000
慶 弔 費	150,000
雑 費	10,000
地域会開催費	2,280,000
課外活動援助費	3,420,000
学生福利厚生費	1,150,420
奥羽大学歯学会協賛費	100,000
学 習 活 動 助 成 費	2,500,000
予 備 費	10,204,835
合 計	22,240,255

薬学部

〔平成26年度役員〕

薬学部父兄会

会 長 小林 啓一
副会長 續橋 隆夫
監査役 志岐 順一

〔主な行事予定〕

定時総会 平成26年 4月 4日(金)
平成26年 5月23日(金)
平成27年 3月10日(火)
幹事会 平成26年 5月23日(金)
平成27年 3月10日(火)
保護者懇談会 平成26年 5月23日(金)
平成26年10月18日(土)

〔予 算〕

(収入の部) 単位:円

科 目	本年度予算額
前年度繰越金	29,728,294
入 会 金	1,300,000
会 費	13,240,000
雑 収 入	10,000
合 計	44,278,294

(支出の部) 単位:円

項 目	本年度予算額
通 信 費	200,000
印 刷 費	100,000
会 議 費	700,000
消 耗 品 費	50,000
旅 費 交 通 費	400,000
雑 費	150,000
課外活動援助費	1,600,000
学生福利厚生費	16,020,000
予 備 費	25,058,294
合 計	44,278,294

「キャンパスの石と彫刻」写真展

図書館企画の「キャンパスの石と彫刻」写真展は2月1日(土)から3月10日(月)まで、図書館1階ロビーで開催され、彫刻の部50枚、石の部39枚の写真が展示された。

本学のキャンパスには数々の彫刻や巨石が随所に設置されており、さながら造形美術館の趣がある。しかしそれらの由来や作者名を知る人は少ないようだ。今回の企画はそれらの紹介も兼ねている。

彫刻写真のうち「躍進」や「創立者影山四郎像」「クリスマスイヴ」の3点は文化勲章を受章された富永直樹さんの作品、「秋・ふたり」(文部大臣賞受賞)、「ジーンズの女」「ふれあいの像」「開幕の刻」(芸術院賞受賞)の4点は山田良定さんの作品、記念講堂前の噴水のある「青春の群像」は帝展作家富田匠美さんの作品である。

巨石は青函トンネルから掘り起こされたものも含めて、キャンパスの至る所に設置されており、時の流れを静かに見つめているかのようだ。



第20回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会

2月28日(金)、本学第3講義棟を会場に、第20回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会が開催された。福島県内大学図書館連絡協議会は、現在の大学図書館が直面している諸問題に対する認識を深めるために年1回実務者研修会を開催している。

今年度は本学が会場校となり、安藤勝館長の開会の挨拶のあと、「図書館と著作権」をテーマに国立国会図書館関西館から2名の講師を迎え、図書館サービスと著作権との関わりや平成26年1月から開始された国立国会図書館の『デジタル化資料送信サービス』についての解説があった。

ディスカッションでは、講義内容を踏まえて質疑応答の形式で活発な意見交換が行われた。

奥羽大学学術機関リポジトリの公開

「奥羽大学学術機関リポジトリ」は3月10日(月)から正式に公開された。管理及び運用は図書館が担当する。これにより世界中のどこからでもインターネットを通じて『奥羽大学学術誌』等のコンテンツが利用できるようになった。コンテンツは順次拡大していく予定である。

なお、博士学位論文は、学位規則の一部を改正する省令により平成25年4月1日からインターネット上の公表が義務化された。

アドレスは<https://ohu-lib.repo.nii.ac.jp/>

※学術機関リポジトリ:「大学および研究機関の構成員が執筆した研究論文等を電子的に収集・保存し、インターネットを通じて無料で学内外に広く公開するためのサービス、いわゆる電子書庫」のこと。

同窓会だより

畠山桂郎(秋田県支部長 歯学部3期生)

昨年の11月新学長赤川安正先生をお招きすることができ、「奥羽大学の再生に賭ける チーム奥羽一丸で」、を演題とした学術講演会と忘年会を開催したところ、先生から今後の大学の明確な方向性が提示され、有意義な1日を過ごすことができました。

現在、奥羽大学同窓会秋田県支部は1期生から35期生まで48名の在籍となっています。

親子ほど違う年齢構成ではありますが、円満な支部活動を展開しており、新規卒業生の受入体制も十分なものと思っております。

春は、主に地元の先生を講師で学術講演会をかねた総会、秋には奥羽大学にお願いした講師による学術講演会を兼ねた忘年会で、年2回懇親を深めるかたちをとっています。

毎年、奥羽大学からの講師派遣をいただいていることに御礼申し上げます。そして、今後においてもご支援お願いいたします。開催翌日には、最近では参加者が減少しておりますが、ゴルフ大会を行っています。

学術講演会のテーマはタイムリーなものを計画し、適切な情報提供を図ることに目的にしており、この春の講演のテーマは、診療報酬改定に関したものを予定しております。

平成22年度においては、高田教授をはじめとした講師陣による「奥羽大学同窓会歯科医師・歯科医院スタッフ向け全身管理実習」を本支部会員及び会員以外の方々に提供できたことは本支部の存在を示すこととなっております。今後においても、開催ができることを望んでおります。

また、県内での歯科医師会への協力としては、県歯科医師会へは2名が役員として、10地区ある中8地区の郡市歯科医師会には会長、副会長をはじめとし役員として参画している状況にあります。最後に、現在良い形で機能している共済メール等の活用により、全国各支部間で相互発展ができるネットワークの構築に期待します。

同窓生のひろば



星野 弘志 (歯学部7期)

日の暮れも早まり、冬の到来に備えたスタッドレスの交換などが気にかかる時節となりました。皆様方には、益々ご健勝のことと存じます。

東日本大震災から3年近い月日が流れようとしています。東北の同窓生の皆様にはその後いかがお過ごしでしょうか？

また、原発事故の未収束、入学定員割れなどと厳しい状況下において、日々ご尽力の大学関係者各位には、誠に頭の下がる思いです。

さて、私は卒業して約29年になります。春日部市、新潟市で数年勤務の後、平成元年に地元見附市で開業。現在4人の子供（男1・女3）に恵まれて、特に病气らしい病気もせず（但し、検査結果は…苦笑）忙しく過ごしております。

見附市は、新潟県のほぼ中央（重心）に位置し、昔はニットや織物で賑わっていましたが、今や外国製品に押され苦戦を強いられています。しかしながら、やはり技術は一流で、プロ野球選手のユニフォームの縫製などを手掛けています。（少し自慢）

またこの十年程の間には、7・13水害、中越地震、中越沖地震、大雪…と災害をたて続けに経験し、町も人も疲弊し、その閉塞感は長期にわたります。そのような次第で私自身のなかでは、郡山は心ならずも意識の中から遠のきがちでした。皮肉なものであの震災以来、学生時代の友人、アパート、ドライブで巡った土地の数々を思わない日は一日たりとてありません。ほかに目を転じてみれば、台風被害、南海トラフ、TPP、近隣諸国との領土問題、相も変わらずの厳しい歯科業界…。平穏が日常で、災害は非日常とばかり思っていましたが発想の転換が必要で、事実はどうやら逆のようです。

近年眉間に縦じわを寄せたくなることばかりの毎日ですが、体が動くことに感謝し、日々淡々と成すべきことを為し、上機嫌で暮らしていきたいものです。

— お詫びと訂正 —

奥羽大学報第140号「同窓生のひろば」に本来の星野弘志氏の文章ではなく、誤って前号の牧野義臣氏の文章を掲載してしまいました。ここに深くお詫びいたしますとともに謹んで訂正させていただきます。

(学報編集委員会)

大内 真莉子 (旧姓：柴田) (文学部14期生)

大学を卒業し早8年。22歳の自分より未来の自分が輝いていることを願った卒業式。願いどおり現在、幸せに暮らしている自分があります。

大学卒業後、私は民間会社の総務・経理を担当し、その後どうしても働きたかった司書として市立図書館に勤務しました。その中で私が主に力を入れて取り組んだのが、レファレンスサービスの向上です。

レファレンスサービスとは利用者の方の調べもののお手伝いを行うことを言い、例えば、〇〇に関して調べているが、〇〇について書かれてある本を紹介してほしいという質問に回答することもレファレンスサービスのひとつに当たります。

司書の仕事は常に社会の状況にアンテナを張り、多様な面において幅広く知識を身につけていかなければならないため、勉強が欠かせませんでした。利用者の方が求めている情報に対し、的確に詳しく丁寧に回答すること、利用者にとって役立つ図書館・司書として存在するよう心掛けてきました。そして尊敬する上司と先輩に恵まれ、働き始めて2年目に入る頃、国会図書館よりレファレンス協同データベースの事例紹介に積極的に取り組んだとして、東北の市町村立図書館では初めて御礼状を頂き顕彰されるという嬉しい出来事がありました。（学報編集部注：平成22年4月1日付毎日新聞秋田版で「横手市立平鹿図書館を顕彰レファレンス取り組み評価 国会図書館」という見出しで写真入りの記事が掲載されました）

また、3年前に家庭に入り、今、言葉を覚え始めた我が子と過ごして、子供にとって本は言葉を得る上で、これ程までに重要な役割を果たしていたのかと気づかされました。何回も何回も指をさし、物の名前を確認したり、お気に入りの絵本だとお話が終わっても、もう一度読もう、ハイッと渡してきます。数十回続けて読んだ後では私の声もかすれてしましますが、うれしそうなお顔が可愛くて、ついつい読んでしまいます。

仕事と子育て、形は変われど本を通じ、貴重な経験ができ司書・司書教諭の資格を取得して本当によかったと思います。元司書として、ひとりでも多くの方が図書館を有効に利用してくだされば幸いです。

人事

〈再任用〉

青木 深 准 教 授	生体材料学	1月20日付
小池 勇 一 教 授	薬 学 部	2月 9日付

〈昇格〉

	新	旧	
三 浦 孝 英	歯学部学事部 教 務 課 長	歯学部学事部 教務課長補佐	2月 4日付
佐 藤 安 宏	総 務 部 総 務 課 長	総 務 部 事 務 職 員	〃
星 幸 宏	企画・広報課 学 生 課 長	企画・広報課 学 生 課 長 補 佐	〃
平 石 ゆ かり	総 務 部 総 務 係 長	総 務 部 事 務 職 員	〃

職名	氏名	所属	退任日	職名	氏名	所属	退任日
〈異動〉				福島	雅啓	助 手 臨 床	3月31日付
平石	ゆかり	総務部 総務課	2月4日付	田中	克典	〃	〃
増子	文夫	総務部 総務課	〃	林	綾子	〃	〃
〈退職〉				東海	林 徹	教 授 薬 学 部	〃
内山	里枝	技術職員 総務課	2月10日付	宇佐	見 則	〃	〃
阿部	友美	医療職員 総務課	2月28日付	倉本	敬 二	准 講 授 〃	〃
釜田	田 隆	〃	3月31日付	真鳥	浦 由	助 手 〃	〃
伊藤	禎雄	〃	〃	三浦	真澄	学 生 係 長 歯 学 部 学 事 部	〃
和田	康弘	〃	〃	嶋	原 美	〃	〃
示野	達也	〃	〃	小磯	美奈子	〃	〃
南條	章太郎	助教	〃	増子	文夫	〃	〃
寺澤	理典	助教	〃	高木	真理子	〃	〃
鈴木	陽貴	助教	〃	川又	ま い	医 療 職 員 看 護 部	〃
山村	内上	助教	〃				
村角	久隆	助教	〃	〈定年〉			
				青木	潔	准 教 授 生 体 材 料 学	1月19日付
				安藤	政明	学 生 課 長 企 画 ・ 広 報 課	1月23日付
				小池	勇	教 授 薬 学 部	2月8日付
				高橋	和 裕	附 属 病 院 長 附 属 病 院	3月31日付

退職によせて



歯学部附属病院 病院長 高橋 和裕

1972年に東北歯科大学第一期生として入学・卒業し、1999年に母校の教授として任用していただきましたが、定年の節目で郡山を去ること

になりました。学生時代を含めると当地での生活は21年となり、故郷の年数を超えてしまいました。教授としての在任期間は歯学教育の主体が学生に変革した時期と重なり、目標を提示した中で行われる教育技法や評価法への対応に追われた15年間で、多くの友人や同僚と学部教育や臨床教育に邁進したことが走馬灯のように脳裏をよぎります。若い時代は体力に任せ多くのことを伝え、理解を求めるための「粹」に意義を感じましたが、経験値が高くなるにつれ医療従事者の「必然」を具体的な繋がりもなく経験する意味に気づきました。今後、教育内容の「質」も問われる時代が到来し、自分で自分の足元を見つ将来をも見通せる個人的な教育環境が必須となる時代が予想されています。教員は平易な「Mission」、具体的な「Vision」、今の「Action」を、それぞれの立場の学生に解かり易く伝えることが義務となってくるでしょう。

母校、奥羽大が勇猛果敢に、より多くの後輩を輩出することを祈ってご挨拶とします。



薬学部 物理系薬学分析科学分野 教授 宇佐見 則行

平成22年4月1日付で赴任以来、4年間と短い期間でしたが、3月31日をもちまして退職することとなりました。

しかしながら、この4年間は、奥羽大学にとって激動の時期でもあり、東日本大震災という未曾有の災害を経験しました。当時の記憶は、未だに鮮明に覚えています。当時は会議中であり、揺れがおさまるや否や研究室で実験をさせていた学生の下へ全速力で走っていました。研究室はめっちゃめちゃになっていましたが、学生の無事を確認し安堵しました。震災以降3年が経ち、少しずつ本学への入学者も増え、これからの活性化に期待するところです。

本学在籍期間中は、KOCOラジ(郡山コミュニティーラジオ 79.1MHz)で「宇佐見先生のおくすりの話」と題して、毎週月金の午後配属学生と共にパーソナリティーを務めました。また、福島県中保健所および郡山市保健所の御支援御協力の下、福島県薬物乱用防止指導員の命を受け、郡山市内の小中学校で薬物乱用防止教育を実践してきました。さらに、本学学園祭では、東北に唯一一台ある薬物乱用防止啓発キャラバンカーを奥羽祭に派遣要請したり、「薬物乱用防止教育を皆で考える2013」と題して学生が考える機会を与えることができました。特に、「薬物乱用防止教育 医薬品の適正使用における医療人の心得」と題して、全学生に対して講演する機会が持てましたのも、教職員並びに事務職員の方々の御支援御協力の賜物であると心より深謝致します。

最後になりましたが、本学の今後益々の御発展を祈念しています。本当にありがとうございました。